

学校名 [岡田小学校]	氏名 [佐藤 慎吾]
[小] 学校 [4・5・6]	年版 単元名 [災害時の情報手段] P 26～27
教科・領域名 [社会] [時間 45分]	

主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
-------------------	-------

【ねらい】

・災害時における情報伝達手段を知り、災害が発生したときに必要な情報とその入手の仕方を理解する。

1 東日本大震災が発生の時に、必要な情報はどのようなものだったか考える。

※付箋に震災当時に必要であった情報を記入させ、グループごとに「直後に必要な情報」と「時間がたってから必要な情報」に分類させた。

【児童の反応】

- ・直後に必要な情報は津波関係が多い。
- ・安全な場所がどこかということをみんな考えている。
- ・家族の安否が最も気になる。
- ・時間がたってからは多様な情報が必要。
- ・必要な情報はたくさんある。

2 どのような方法で災害時に情報を得られるか考える。

※ワークシートに考えつくだけ記入させた。
 ※ラジオの有用性や災害伝言ダイヤルの紹介をした。
 ※副読本を読み、ポイントを確認した。河北新報社のエピソードの紹介。

3 災害時に必要な情報をメディアから得るときに大切なことを考える。

【児童の反応】

- ・今必要な情報は何か考える。
- ・多くのメディアから情報を収集し、より正確なものを見極める。
- ・正確な情報は自分でも発信して、周囲に伝える。

※ワークシートに記入させながら考えさせた。

【児童の伝えたこと】

- ・必要な情報が必ず入手できるとは限らない。「わが家の防災カード」のような事前の準備も大切になってくるといふこと。
- ・情報を伝える人々にも様々な努力や工夫があり、自分たちに届けられるといふこと。

【準備物】

- ・パソコン・大型テレビ・画像
- ・副読本・ワークシート・インターネット



【授業の感想から】

- ・災害時には冷静な判断をすることで、ラジオなどで情報を手に入れることができることを知りました。
- ・メディアが人々の命を救うこともあるのだと思いました。
- ・災害直後に考えることなのか、後から考えてもよいことなのかによって必要な情報がちがうことに改めて気付きました。
- ・震災当時は情報のことを考えていなかったが、情報を得る手段が様々であることを感じました。
- ・災害時には、自分に必要な情報を性格に聞き取る・読み取る・見ることが大切だと思いました。そして、その情報を周りの困っている人に教えてあげるといいと思いました。